

学校経営のポイント

「心と行動のネットワーク」報告

若井 彌一

去る4月13日、文部科学省の「少年の問題行動等に関する調査研究協力者会議」(主査=坂本昇一・千葉大学名誉教授)は、「心と行動のネットワーク」という表題をつけた報告をまとめた。

この報告の副題には「～『心』のサインを見逃すな、『情報連携』から『行動連携』へ～」と、強調点が掲げられている。

「報告」を校内研修等で検討する

すでに教育関係の雑誌や新聞等でも、この報告の概要については解説が行われているが、各学校ではぜひ一度、この報告内容について校内研修等でとりあげて検討していただきたい。

たとえば、報告では、児童生徒の問題行動の背景や要因として、社会性や対人関係能力が十分身につけていない児童生徒の状況、基本的な生活習慣や倫理観等が十分身につけられていない家庭の状況、生徒指導体制が十分機能していない学校の状況、大人の規範意識の低下や子どもを取り巻く環境の変化が進む社会全体の状況、という4点を指摘している。

また、「問題行動を防ぐために今後一層充実すべき施策」のところでは、「[1] これまで提言してきた対応策をより確実に実行する必要のある内容」として、次の7点を掲げている。

校長のリーダーシップのもと、全教職員が協力して指導にあたる体制を整備すること。

児童生徒の問題行動に対する教職員の認識や対応を十分なものとする。

学校と家庭や地域社会との連携を十分図ること。

学校と関係機関との連携のあり方について十分な検討や改善を図ること。

学校間の連携を十分図ること。

教育委員会による学校への支援を十分行うこと。
教育委員会において、学校が連携を深めるための施策を充実させること。

報告では、さらに今後の「具体的な対応方策」として、「心」の問題への対応、児童生徒の社会性を育む教育の展開、学校と家庭や地域社会、関係機関とをつなぐ「行動連携」のシステムづくりなど、かなり踏み込んだ内容の提言を行っている。

これらの提言内容を、各学校等では鵜呑みにするのではなく、主体的な観点から検討されることを切望する。

自己点検・自己評価の実施への備えを

今回の報告では、児童生徒の問題行動に対する学校や教育委員会の対応について、各学校や教育委員会が、自己点検・自己評価できるような点検項目を作成し、それに基づき点検と評価を実施すべきことが最後に提言されている。

そして、その結果について公表し、外部からの意見に耳を傾けるべきことも指摘されている。いわば、アカウントビリティ時代に突入した学校の生徒指導という認識が、報告では示されているのである。時代の要請としてとらえ、各学校で前向きな取組みがなされることを期待したい。

(わかい・やいち=上越教育大学教授)

5月特大号 月刊**教職研修** 大好評発売中
特別付録「ミレニアムCD」添付

ぜひ一度、書店で手にとってごらんください

「21世紀への提言」「教育行政資料(中教審答申等)」「全国特色ある学校一覧」「教育関連URL一覧」「教育100年史」「教職研修誌創刊号からの目次一覧」など学校経営に役立つ資料が多数収録されています。

本紙はホームページでも閲覧できます

5月の新刊案内 いよいよ5月22日刊行! 文部科学省が4月27日、正式に指導要録改訂について通知。

通知で示された「各教科・各学年の評価の観点及びその趣旨」「特活の評価」「行動の記録」等、全文を収録!

教職研修増刊**新指導要録全文と要点解説** B5判 300頁・定価2,350円

研修誌・図書の直接注文、研修会のお申し込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)